



# 新年のご挨拶



## 共に持続可能な 国土・地域づくりを

東京土木施工管理技士会 会長  
東急建設株式会社  
代表取締役社長

寺田 光宏

2024年の新春を迎え、一言ご挨拶申し上げます。

まずは能登半島地震でお亡くなりになられた方のご冥福をお祈りするとともに、被災された方々に心よりお見舞いを申し上げます。

会員の皆様におかれましては、平素より技士会運営に格別のご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルスが5類感染症に移行し、社会活動も活発化するなど、ようやく明るい兆しが見えてきました。加えて建設需要は、製造業の設備投資拡大やインバウンドによる商業施設やホテル需要の高まり、都心の再開発などにより旺盛な状況が続いています。

その一方で、いよいよ4月から建設業界においても時間外労働の罰則付き上限規制が適用されます。「長時間労働の是正」、すなわち「働き方改革」への対応は待ったなしです。

規制への対応はもちろん、高齢化による就業者不足解消や若年層の入職促進、週休二日の導入、女性活躍推進など、これまで以上に労働生産性を高めるとともに、業界を挙げて早急に働き方改革を実現しなければなりません。また、DXの導入推進による作業員の負担軽減と生産性向上、労働時間の見直し管理によって多様な人材が活躍できる職場環境づくりも進めていくことが求められます。残業時間削減の取り組みが、決して安

全・品質のレベルの低下につながらないように我々は肝に銘じなければなりません。会員の皆様におかれましては、建設業が抱える2024年問題の解決に向けて、それぞれの実情に合わせた対応を強力に推進していただくようお願い致します。

次に、国土強靱化対策についてです。我が国の社会資本の多くは昭和の高度経済成長期に集中的に整備されたもので、既に30~50年が経過しており、今後そのストックの老朽化が急速に進行します。さらに近年は台風や集中豪雨などの大規模な自然災害が頻発しています。首都直下型地震の発生も危惧される中で、さらなる国土強靱化に向けた取り組みは急務です。

我々土木技術者の社会的使命として、長年に亘り培った技術とノウハウを発揮し、国民の生命を守るために尽力し、持続可能で活力ある国土・地域づくりに寄与するとともに、東京の発展と強靱化の実現に貢献してまいります。

当技士会では、今後も東京の建設業界を取り巻く諸課題の解決に取り組んでまいりますので引き続きご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、会員の皆様のご健勝と建設業の益々の発展と国民が安全で安心できる明るい年になることを祈念申し上げ、新年の挨拶とさせていただきます。



## 新年のご挨拶



### 新たな土木技術の 習得へ向けて

東京土木施工管理技士会 副会長  
戸田建設株式会社  
常務執行役員土木工事統轄部長

清原 啓太

2024年の新春を迎え、一言ご挨拶を申し上げます。

まずは、元日に発生した能登半島地震によりお亡くなりになられた方々に謹んでお悔やみを申し上げます。また、家屋等が被災し、避難所での生活を余儀なくされている被災者の皆様に心よりお見舞い申し上げます。

そして、元日から昼夜を問わずに被災地の一刻も早い復旧・復興を図るために奮闘している我々建設業の仲間に対し、深く感謝を申し上げます。

昨年は、国内においては、ほぼコロナ感染症が収束し、社会経済活動が正常化してきましたが、国外においてはロシアのウクライナ侵攻の継続、さらにはイスラエル・パレスチナの紛争の勃発などの国際問題が拡大することによるサプライチェーンの混乱と、円安が更なる物価高をもたらし、私たち建設業界においても、資機材の高騰など大きな影響が出ました。

また、近年の気候変動の影響により激甚化した豪雨や台風等の災害が、昨年も各地で頻発し、社会インフラへ多大な被害をもたらすとともに、南海トラフ地震の発生も予想され、防災としての社会資本整備の重要性がより一層増しています。

このような社会情勢の中において、私たち土木技術者は、着実に社会都市基盤の整備を進めていくため、更なる技術の進歩・革新を目指していかなければなりま

せん。東京土木施工管理技士会も、土木技術者の技術力を高め、社会的地位及び資質の向上を図ることを目的とした、土木技術者の技術力向上にむけた取り組みを進めてまいります。

技術が高度化していく建設工事の中で、土木技術者のスキル向上とデジタルリテラシーがさらに必要となります。CIM/BIM、自動化、ICT施工、AIなど新たなDXへの取り組みやデジタル技術の導入に伴い、デジタルツールの使用やデータ解析等の技術者のスキル向上が求められ、これに対応する教育やトレーニングが重要になってきます。

また、本年4月からの適用となる時間外労働の上限規制に対応することは、我々にとっての喫緊の課題であり、労働力不足の中、先に述べたDX等による生産性の向上は必要不可欠なものとなっています。

当技士会も、現在の状況を踏まえた土木技術者の更なる技術向上と発展を続ける首都の都市機能整備に貢献していくとともに、未来を担う魅力ある建設業実現を目指し、努力をしております。会員の皆様にも一層のご協力をお願いいたします。

結びになりますが、本年の会員の皆さまのご発展とご健勝を心から祈念して、新年のご挨拶とさせていただきます。



## 建設業界の 魅力向上のために

東京土木施工管理技士会 副会長  
清水建設株式会社  
土木東京支店 常務執行役員支店長

齊藤 武文

2024年の新春を迎え、一言ご挨拶を申し上げます。新年早々、令和6年能登半島地震が発生しました。お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りすると共に、被災された方々には心からお見舞いを申し上げます。

さて、会員の皆さまにおかれましては、平素より技士会運営に格別のご理解とご協力をいただいておりますことに心より感謝申し上げます。

昨年を振り返りますと、5月に新型コロナウイルスが5類に移行されて以降、社会経済活動は徐々に正常化に向かいました。国内設備投資は2年連続で増加の計画であり、コロナ前の19年度の投資水準を超えて拡大する見込みです。さらに、7月に閣議決定された新たな「国土強靱化基本計画」において、デジタル等新技術の活用と地域における防災力の一層の強化が新たな方針として記載されました。まさに、土木技術者の力の発揮される分野です。皆さまの優れた施工・監理技術を存分に発揮し、防災・減災・インフラ整備に貢献していただきたいと思っております。

さて、建設業への時間外労働の罰則付き上限規制適用まで残すところ3か月と、待たなしの状況が迫ってきました。会員各社においては、この1年間、上限規制クリアに向けた取り組みを一層推進されてきたものと思います。実効性のある取り組みになっていることを最後の3か月で点検し、不安なく4月を迎えられるように準備を

お願いします。そして、来年度以降の2024年問題の取り組みについては、時間外労働時間の削減という数値管理のみに捉われず、適正な工期の下での週休2日の確保や賃金引上げ、生産性向上に資するDX化推進、施工の省人化・省力化など、働きがい向上と合わせた活動となるようお願いします。足元では、資材価格高騰や国際情勢の不安定化など、先行きの不透明な社会状況にあり、工事採算性の悪化が危惧されています。また、そのような時代ゆえに、処遇改善を通じた建設業界の働き方改革・魅力向上は、従事者の減少する建設業界において若年労働者の入職に不可欠であります。そして、技能を未来に引き継いでいくことで、建設業界の持続可能性にも寄与します。

今年の干支は「甲辰」であり、物事の始まり・成長を意味する「甲」と、草木が成長し整い、活気にあふれる様子を意味する「辰」が合わさった年であります。皆さまがこれまで実施してきた2024年問題やコロナ禍への対応、働き方改革が実を結び、新たな業界の魅力向上に資する1年となることを願っております。

結びに、能登半島地震被災地の1日も早い復興と建設業のさらなる発展と会員各社の皆さま方の益々のご健勝を祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。